

その2

# ママと画家

きく人

向井修一

△画家▽

★左・ノブクラブのママ 中央・ドガのママ

今回は、神戸でも近頃話題になっているスナックバーの二人のママに出席してもらった。

「ドガ」のママ、矢原さんは昨年夏、四ヶ月にわたり南太平洋諸島を一人歩きしたなかなかたのしい女性。自分の生活を最高に楽しんでいる感じで気持がいい。近頃めっきりきれいになったとはお客さんの評である。ノブクラブのノブちゃんは、一昨年七月ほど「イレブンPM」などで私達におなじみだった女性。今、愛に対して結婚に対して悩んでいるらしく、目下恋愛中?の様子。明朗で可愛らしさが残っている女性である。若くて素人くささがある、ママさんらしくないママ。いつまでもそうであるように「カンパイ!」。

★二人共なかなかおしゃれですね。

ノブ そりや、神戸っ子ですもの。神戸っ子イコールおしゃれ上手ということだものね。

★といいたいが、神戸に住んでいる人で、そんなにおしゃれな人は大していませんよ。おしゃれな子が神戸の街のもつ雰囲気に興味をもって寄ってくるんじゃないかな。

ボクの嫌いなタイプで、中年女で個性のないのがたくさんいるけど、なりたくないタイプってありますか?

ドガ いやな意味で女性らしい女性。

ノブ ぬかみそくさい女性。

★それでは結婚についてお聞かせ願いたい。

ノブ ノブはすごく結婚したい。でもね、三年したらこの



## リラックスインタビュー

- 道絶対やめられないと思う。一年か二年でバツと結婚して、もしそれがためならずっと続いている。平凡だけど結婚にかけてる。でも私は結婚は二人だけの問題でないと思えるの近頃：★うそそ、結婚は二人だけの問題であるべきだよ。
- ノブ 私はそうは思わない。ノブはそんな勇気ないの
- ドガ ノブはそういう時期なのよ。大体平均して十九才から二十四才までが一番結婚したい年令じゃないかしら。二十五才をすぎて生活力さえあれば結婚をあまり考えなくなるわ。
- ★女は生活力がなければ単なる商品だし、ただ家にいてお茶やお花を習って洋裁学校に行き、チャラチャラ着飾っていることで貴重な時間を費していると思うけれど、あなたもそんな過程を経てきた？
- ドガ 全然そんな経てこなかつたし関係ない（笑）自分のやりたいことを出来るだけやってきたつもり。
- ★ところで、職業感は？
- ドガ 最近私は水商売が男性の職業に変りつあるように思えるの。とくに神戸なんかでは、バーテンさんの魅力とお店の個性がつながっている場合が多いんじゃあないから。
- ★そういえば、ドガの人は口が悪いネ（笑）でも神戸にはそんな店が多いし、家庭的ではあるけど……。
- 自分がこんな店をやってみたいとか、こんな店があつたらいいのに、といふものはない？
- ドガ 徹底してフォーマルか、徹底して可愛らしいお店があつたらいいと思う。神戸には中途半端な店が多いと思うわ。
- ★本当に徹底してフォーマルで、そこへ行くには少し無理をしてもいいと思う。全体に個性が無さすぎるのじゃないかな。わざわざその店に飲みに行きたいと思う店が少ないな。いずれにしても夜の神戸は昼の神戸にくらべてあまり魅力がないネ。
- 最近海外旅行をしただけれど、楽しかった？
- ドガ 一人で南太平洋諸島を廻ったんだけど、とにかく砂が真白で海がすばらしくきれいだった。タヒチ
- ★最初からそういう素朴なところを選んだの？
- ドガ こんな商売をしていると、全然関係のない所へ行って、二ヵ月違った生活をするのは必要だと思わ。そういうのはせいぜい沢といわれるけれど、私はそのため仕事をしているみたい……。
- 他に何か印象に残つたことあった？
- ノブ ボラボラの海岸で寝そべっていたら、四・五人の土人がめずらしそうに取り囲んで、白人でもない黒人でもない、いつたい何ものだろうというわけネ。私がニコッと笑うと、その中の一人が近寄ってきて指でニコッと肌をさわるの（笑）まるで怪物でも見ているような目附をして（笑）それからサイパン島では、車が木にぶつかるでしょ。そうすると日本人の感覚では車の方をどうるじゃない。だけど木の方を一生懸命のこぎりで倒してその上を行くの。感覚がまるで違う（笑）もう一度行くのだつたらボラボラ位ネ。でもアメリカにも一度行ってみたいわ。
- ★ノブちゃんは“イレブンPM”に出てたんだけどおもしろかった？
- ノブ 大人の話がいつも聞けた感じだし、中継ではいろいろな所へ連れて行つてもらつて、ちょっぴりスタイルのよくな気分も味わえたわ。
- ★そりや、きょくよかつたネ。
- タ 知つてる？
- ノブ 好き好き知ってる。
- ドガ あるある。
- △注 この話題あまりたくさん出すぎて、到底掲載すること不可能のため省略いたしました。残念△

アイ・ラヴ・ユー……きれいな言葉。これがアイ・ラ

イク・ユー……となるとすこし水くさい。そういうわけで映画はとくにこのアイ・ラヴ・ユーの言葉を聞くため映画館に行く。映画はあれは本当の人間が演じているのだけれども「演じている」のであって本当ではないからこそ見に行くのであって、あれが本当だったら、いつたい誰がゼニを出してまで人のラヴ・シーンなんか見たがるであろう。それでリズとバートンのものすごいラヴ・シーン映画なんかをうれしげに見つめる人はよほど

の善人である。

そこで映画はサイレント時代のその昔からえんえんとそのラヴ映画をはてなく製作し、たんまりとお金をもつけたのであるが、それでもやっぱりそのラヴ映画のあまりの美しさにすっかり見とれ惚れこみ感激しつくした名作というものも少なくはない。

「第七天国」という映画はサイレントのときとトーキーになってからとこれは二度も映画化されたラヴ映画であるが、どぶさらいのしがない労働者のシコという若者と

みなしこのよるべなき少女ディエンヌのこの二人が恋しあい、ついに二人はそのシコの七階のぼろ下宿屋のその一番上の七階目の天井裏の部屋で抱き接吻する。二人はここでなにか愛の囁きをかわさねばならないのであつたが胸がいっぱいのうえに生れてこのかたのラヴ・シーンなどというものの経験のなかたこの二人はその愛の言葉にハタとつまつた。そこでシコがやつと思いつけて囁いたその愛の言葉というのが「シコ」と自分を指さし「ディエンヌ」と抱いた彼女の名を呼び、そして小さな天井裏の部屋を見廻して「天国」といった。すると女はそれをとつても喜こんで、もう一度おっしゃつてくださいたのむ。すると男はとくいになつて「シコ、ディエンヌ、天国」。彼女うつとりとして、もう一度……そして彼がまた「シコ、ディエンヌ、天国」七階の天井裏のその小さな窓からは夜空のきらめく星がまたたいて見えた。これをサイレントではチャーレス・ファーレルとジヤネット・ジイノアが演じ、トーキーではジミー・ステュアートとシモース・シモンが演じたのであった。

## 相——淀川長治 <映画評論家>

19



# CINEMA

## 映画に見る愛の時代

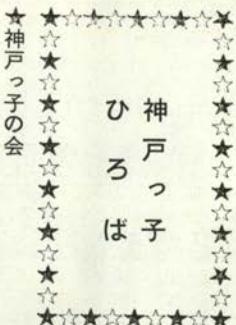


最近ではその愛は「禁じられた情事の森」や「女狐」や、このあいだのジアンヌ・モローの「マドモアゼル」みたいな描き方になって「愛」の世界もえらくゆがんでしまったとあきれなげかれるおひとは幸福か馬鹿かのどちらかで、「第七天国」の「シコ、ディエンヌ、天国」の夢はやがてこの世の現実にひきもどされ「マドモアゼル」にその本体をさらけさせられてしまう。「禁じられた情事の森」は、男と男の愛慾を覗き、「女狐」は女と女の愛慾を覗く。けしからんことであるが、人間は動物であつてまた動物ではなく、アイ・ラヴ・ユーも今日はかかる形にまで変化したのであつたのか……とさとるお人はすこし幼なごころの人であつて百年千年の昔から人間とがれつともこのもれゆがんだ複数の愛の流れの洪水のなかでは、とくに何かの本物の愛をつかもうとする。本物の愛とはいつたないのであろう。そこに映画もやつきとなつていろんな映画を製作し、小説も詩も絵画も音楽も舞踊もその本物のラヴを追う。

そうなると「シベールの日曜日」や「突然炎のことく」のように、三十歳の青年と十三歳の女の子の恋や、二人の男が一人の女を熱愛し、その一人が彼女と結婚し夫婦となつたあとで、その妻たる女が良人の目前でもう一人の男と心中をして、その死せる二人を見つめた彼女の良人が、ああこの二人を一緒にしてやるべきであつたと涙をにじませるような……そんな映画にその「愛」はその「愛」の描き方は這入りこんでゆく。

けれどもクロード・ルルーシュ監督の「男と女」や最近のスウェーデン映画の心中悲恋の「みじかくも美しく燃え」などを御覧になるとアイ・ラヴ・ユーは冬の風を聞きながら暖かい部屋のなかで美しいメロディのレコードをかけそれを聞く楽しみ、そんなのがやっぱりいいというわけで、あの「哀愁」の螢の光のメロディをキャンドル・クラブで二人が踊りながら聞き、そして愛を囁く……やっぱりあれがいいわ……と観客はいまも健康である。

# 神戸っ子



生バンドで楽しいダンス



風船競技に場内は湧く



ギター演奏向田さん



奇術を演じる福岡さん

本年度から神戸っ子の会の会計は、年間二千円（前期後期の年二回払い）。入会金は二千円（前後期の年二回払い）。入会金は二百円）をお支払いいただきます。会員の方は毎月神戸っ子をお送りいたします。そして本代（一、三〇〇円）の残金は、送付、事務費とにかく、後は会を開くたびに参加費をだしてご参加していただきます。今年も、神戸っ子の会は、はりきつておりますので、ぜひともご参加、またお友達おさそいでください。

12月＝クリスマスパーティーを一年を振りかえって親睦会をかねて開きます。参加費 一〇〇円

このようなプラン（変更あり）の他に百店会で、安いお買物ができる特典や催物のご案内または、神戸を勉強する会などを聞いてゆきます。

9月＝淀川長治氏（映画評論）T.V.の日曜映画劇場でおなじみの淀川先生を開んで、映画のお話を聞きます。

新らしい映画観賞とお茶代もこめて

3月＝神戸っ子酒祭（神戸っ子7周年記念）を開きます。参加費 一五〇円  
井合子さん、上月倫子さん、三谷君の三組が優勝した。よいよ会は佳境に入つて、GOGOダンスでミニスカートがゆれた。

5月＝今年も神戸カーニバルが5月5日に開かれることになりました。昨年にひきつづいてミナト神戸のエキゾチックな郷土の祭りにしようという意気込みです。

これに神戸っ子の会も協力して、カーニバルのパレードやお祭りひろばに参

加します。

★神戸っ子の会

神戸っ子の会では、今年も新鮮な企画を

てて、皆さまのご要望にこたえようとしてい

ます。

3月＝神戸っ子酒祭（神戸っ子7周年記念）を開きます。参加費 一五〇円

井合子さん、上月倫子さん、三谷君の三組が優勝した。よいよ会は佳境に入つて、GOGOダンスでミニスカートがゆれた。

5月＝今年も神戸カーニバルが5月5日に開かれることになりました。昨年にひきつづいてミナト神戸のエキゾチックな郷土の祭りにしようという意気込みです。

これに神戸っ子の会も協力して、カーニバルのパレードやお祭りひろばに参

加します。

★神戸っ子の会

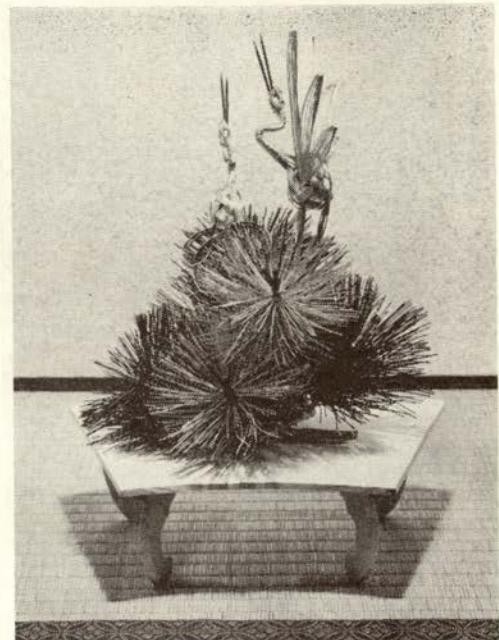
神戸っ子の会では、今年も新鮮な企画を

てて、皆さまのご要望にこたえようとしてい

ます。



幸せな二人の  
えにしを結ぶ結納儀式用品

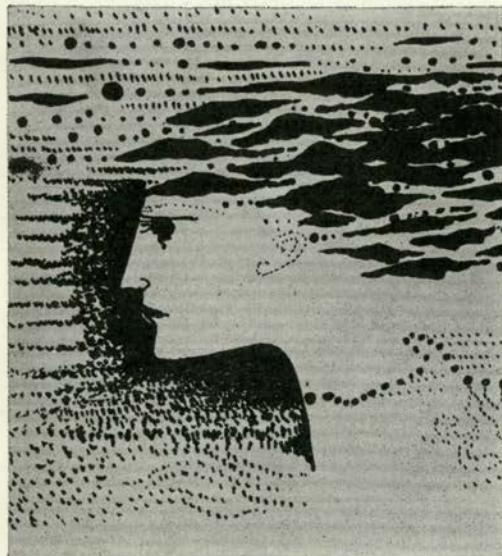


合資会社 \* 創業 35 周年

# 遠藤福寿堂

東店・神戸市生田区トアロード高架上る	TEL (39) 1871(代表)
西店・神戸市長田区市電停菅原東入	TEL (55) 2251(代表)
神戸大丸百貨店地階	TEL (33) 8121
神戸十合やしき百貨店地階	TEL (22) 4181
姫路やまとやしき百貨店地階	TEL 姫路 (23) 1221
姫路山陽百貨店地階	TEL 姫路 (23) 1231

神戸の気楽な雰囲気が  
楽しめます



CLUB

露

清水 よし子

生田区下山手通2丁目 TEL 39-1515

Nakanawa



宝石  
貴金属  
時計

仲庭

さんちかタウン (39) 4593  
梅田新道 堂ビル北(364)8121代表  
桜 橋 毎日新聞社前(341)0412  
新大阪ステーションストア  
大阪ロイヤルホテルセイコーショップ

# UNE DANDY CORNER

うネ ダンディコーナー  
<紳士服飾>

★神戸店=元町通4丁目64  
TEL(078) 33-2677  
★東京店=東急百貨店日本橋店1階  
TEL(03) 211-0511 内線318  
東急百貨店本店6階(渋谷)  
TEL(03) 462-3435

## 男の話題

### ★DRINKING



「モダンジャズを聴かせてくれる、それだけでもこの店はボクらのお気に入りや」と常連紳士はのたまう。神戸で唯一のモダンジャズを聴かせてくれるスタンド「モンシル・トン・トン」がそれ。生田新道の山側。東門筋から三軒目を二階に上る。ドアを開けるとシックな洋風スタイルの落着いたムード。マスターは寺本五郎さん。今度山本通4丁目に水交舎といふ会員制クラブを開いた。何よりもモダンジャズが好きといふマスターの好みを反映して、良いジャケットを聴かせる。バーテンの山田さん、可愛い環さんと流さんが気楽なお相手してくれるし、船来ものめずらしいブランディやスコッチが楽しめる。客層はサラリーマンが多い。ビール200円 ハイボール・フィーズ350円 午後6時~10時まで。

### ★SHOPPING

もう「うネ」のウィンドーは春ものが豊富に飾られ



ている。写真上は白地に紺とチリーブラウンの細いストライプがすっきりと入ったジャケット(8,800円)。ゴールドに衿元がチリーブラウンの新しい色をあつかったイタリー製のボロシャツ(6,500円)。ダイヤ柄のズボン(900円)などシャープなタッチの品々だ。この他ベンギンの長袖綿セーターや各色そろっている(2,500円)。写真下は手織りツ

イードの替え上着は、アイボリーにグレーの春のムード(16,500円)。ダークグリーンのシャークスキン替えズボン(4,800円)。西ドイツ製ネクタイ(4,200円)。それにベルトレスが布地風で、いろんな種類がそろっている。



## ダンディ訪問★池畠廣士郎氏

元町で、貿易会社を甲南大学陸上部時代の先輩と二人で経営している長身のダンディー池畠廣士郎氏(25才)におしゃれについて伺つた。彼のおしゃれポイントは「仕事の時や、改まらねばならない時以外はなるべく背広を脱いで、セータルックのラフな格好でありたい」ということだが、この日の白地に細い赤の格子のワイシャツ、黒のVネックセーター、チャコールグレーのズボンにスエードのジャンパーはピッタリだった。好みの色は、ブルー、チャコールグレー、黒、濃紺で全然だめのが茶系統、従つてスーツも全てダーク系のものが多いそうだ。仕事の関係で、年に数回海外のあちらこちらに出る彼は、神戸の町を「仕事をする上にも、レジャーを楽しむ上にも世界最高だと思う」という。最後におしゃれ哲学について「おしゃれというものは、その日の自分の気持に合ったものを選ぶことが大切だと思う。たとえば、澄みきった青空の下をスポーティーなスタイルで六甲辺りにドライブするなんていうのは最高だなー」という返事。彼は今、青年の船に乗って東南アジアにいる。



# 神戸遊戯誌 52

## ★草分け的存在は直木重一郎氏

スキーが日本へ初めて紹介されたのは、明治四十四年（一九一一年）一月十二日、新潟県高田の第一三師団歩兵第五十八連隊の營庭で、十名の青年将校で編成されたスキート修員が、オーストリアの武官テオドル・フォン・レルヒ少佐によつてスキー術の指導を受けた時だつた。このように日本のスキーは軍隊によつて先鞭をつけられたわけだが、誕生したその年から、広く民間人にも普及されるようになつたのは、当時の同師団長長岡中将と堀内連隊長の見識によるもので、スキーは軍隊の専有にすべきではなく、広く雪国の住民に開放し普及させ、今日までの長い冬期間の退えい的な人心を一新すべきで

ある」という両人の意図から、第二回目の講習会は、広く民間からも希望者を募集して、一般に普及させる機運と素地とを作つたのであつた。

日本のスキー史は大正の初めから同十二年までのスキー界を戦国時代とか群雄割拠時代とか呼んでいるが、群雄というのはいずれもレルヒ少佐によつて直接の青年将校で、信越、東北、北海道の三地区に分かれてそれぞれ一本杖のアルペンスキー術で鼻高々の滑走ぶりを試みていた。このようなとき、大正五年に北大教授遠藤吉三郎氏がヨーロッパから帰国して、ノルウェーのスキー術を紹介するや、北大生を中心として札幌のスキー界は飛躍的な進歩をとげた。現在のような両杖を使用するようになったのもこ



写真上・神鍋スキー場にはじめてできたワラ蓋の茶店（昭5・2・23）

中・城崎に行った神戸スキークラブのメンバー（昭3・1・15）

下・訪日したシュナイダー氏（昭5・4・10）

左・昭和初期のアルペン・スキーのビンドウンク



## スキー (1) 青木重雄

れからであり、シャンツエ（飛台）を作つてジャンプの練習をすら行なうようになった。この影響で信越地方でも翌年は両杖を使用するようになった。やがて日本のスキー界もしだいに全国的なスキー人口を持つようになり、大正十二年二月に小樽市で第一回全日本スキー選手権大会が開かれることになった。ついで十四年には全日本スキー連盟が創立され、全国から二十団体の参加をみたがこの中に神戸からは六甲スキー俱楽部が参加した。以上がスキー界の初期の姿だが、神戸で現存の最も古いスキーヤーは六甲スキー俱楽部の創立以来のメンバーだった直木重一郎氏（神戸徒歩会、R・C・C・ロック・クライミングクラブ）創立者、神戸スキークラブ会員、山岳連盟会員、木彫工芸教室主宰）である。彼は大正十一年に大阪でスキー用具を買つたが、全部の代金は十二円だった。十二年ごろから本格的にスキーをやり出したが、当時は二・五十结合起来の一本杖でクリスピニヤヤとテレマレクがはやつていたものだ。十五年に六甲スキー俱楽部のバッジ（スキーに羽根の生えたデザイン、K・S・Cの略称入り）を作つたのも彼だった。また、四十余年から自費で六甲山（表裏）の地図を作成し六甲登山を普及したのも彼である。もっとも彼より先にスキーを始めた先輩に春日英三氏（故人）がいたが、彼は開学卒後鹿島銀行へ勤務していたが、大正九年にいち早く越後の高田へ出掛けてスキー具を買つてきて始めた。

十二年ごろの同俱楽部の会員数は三十五、六人だったが、十三年には八、九十人にふえた。ほとんどが男性で、年齢は二十代前後で、三十を越すと年長者にみられていった。職業は株屋、貿易業者、銀行員、三菱造船社員、専門校生（関学、神戸高商、三高）大学生（京大、関大、同志社大）などだったが、まだそのころはきまつたスキー服がなく背広にズボン姿、靴もスキー靴をはいているのは二割ぐらいで、ほとんどは兵隊靴だった。みんな六甲山から下山すると、そのままスキーを肩にかついで誇ら

しげな顔で元グラウンドで出かけ、喫茶店でスキーの話に花を咲かせたこともたびたびあった。当時たつた一人若い女性のスキーヤーがいたが、彼女は大阪音楽学校の校長の娘で、スキー場では彼女のいるところへは男性スキーヤーがいつも集まり、全く女王蜂的な存在だった。スキーを楽しむよりも男性たちからのラブレターを読むのが楽しみではなかろうかと思われるほど、いつもたくさんの方々がラブレターをもらっていた。また、同俱楽部員の一人に変わり者の加藤文太郎氏がいた。彼は「単独行」という有名な登山書を出版して有名になつたが、登山のベテランだったが、スキーはあまりじょうずではなかつた。だが山の天候をよく見ることと直滑降ですべるのに長じていて、下山する時のスキーだけはペラ棒に早くして同行者をピックリさせた。彼は惜しくも大正十一年山で遭難して命を失つた。

六甲スキー俱楽部はもちろん六甲山でのスキー練習がおもだつたが、時には信州の赤倉や滋賀県の伊吹山、兵庫県下の鉢伏山、神鍋山、氷ノ山などへも出掛けたものだ。十三年に赤倉へ行つた時は、半メートルほどの高さの雪で飛台を作り、それを飛び越える術を初めてレルヒ少佐に教えてもらつたものだが、直接指導に当たつてくれたのは高橋某といふ日本人だった。十五年以後は北大の名ジャンパーだった緒方直光、温光氏の兄弟に六甲山で大いに指導を受けた。二人とも神戸一中の卒業生で北大へはいつてからスキーをやり出したものだが、神戸出身の大スキーヤーなどは当時としては珍しい存在だった。名前とのおり両人ともまじめて珍しく温厚な性格の人だったが、ジャンプ競技では昭年五、六年ごろへかけて抜群の技りようを示していった。第二次世界大戦でどちらかが戦死したそうだが、れい明期の神戸のスキー界にとつてはこのうえもない功労者だった。なお、六甲スキー俱楽部のできたころと前後して姫路スキー俱楽部も生まれていた。

# 神戸うまいもん巡礼

赤尾兜子

日本料理の巻

神戸という街は、東西に帶のように長い。この地理的条件が東西の街の感じにかなりの差をつけている。たとえば三宮と福原、このふたつの街区間の客の交流はおなじひとつ街なのにあまりかんばしくない。東が優位に

たつ。昨年十一月に開いた「雀」(生田区北長狭通二丁目、生田前商店街、国鉄高架から北一筋目を西入る)は、福原から三宮へ進出した店である。焼とりで知られた福原店とちがって、こんどの新店は、卓袱(しっぽく)料理でアッピールを目指している。三階建。

女将の河村しづ子さんは、福原で知られた人。転向してトリで八年、しっぽく零年というところである。

竹中郁さんの話によるとむかし、花隈に「宝屋」(たからや)というしつぽく料理専門の店があり、料理もよかつたが、その値段も神戸の超一流だったらしい。いらっしゃらない。

しっぽくとは、明治生まれの人が食卓のことをしっぽく台というように、そのもとは中国風の食卓のこと、それへのせて出す料理をしつぽく料理といい、長崎へ伝来、いまも長崎の名物である。それが精進(しょうじん)料理のばあい「普茶」(ふちゃ)料理となる。中国惣菜

上 大皿に盛った前菜のような刺身とつきだし。  
中 雀の和風カウンター。  
下 雀のしつぽく料理。



No. 63

料理の日本化したもの、それに洋風料理の手法もまじって、主客が一卓をかこんで、鳥歓魚介を材とした料理をつつく、まあ、そんなものである。

ところで、この店のそれは、ぐつと日本料理化してあり、お惣菜料理どころか、ずっと豪華だ。

大皿に盛った刺身（えび、たい、ひらめ、はまち、いか）ついで中国料理の前菜のようにこれも大皿に盛りつけた豚の角煮、たこ、鯛の子、いかのうに焼、ごりなどが出て、土鍋の茶わんむしというぐあい。これをとりあって食べるのだが、しごく魚の鮮度がいい。果物をつけた三品で一人前一五〇〇円。これより値があがれば、品数が多くなる。茶懐石のかたぐるしさをきらう若い人たちにもなじんでもらうようにしたというが、それはこれから努力によるであろう。もうすこし中国、西洋ふうのものをあしらうべきではないかと、私は思う。

二、三階にある七つの新座敷でやる。酒は特級酒。庶民的で、五百円あれば飲んで食える「すいきょう」

（生田区北長狭通四高架下）が国鉄元町駅東口のすぐ西に



カウンターを見てお好みの品を主人に注文して作ってもらう「すいきょう」。

ある。「醉境」というのがほんらいの名だが、いまは右が通り名。神戸にこの道の親戚が多い滋賀県生まれのおやじさんがはじめてから十年。

十数人くらいが、腰かけにわられる店。メニューはない。客の前のガラスケースに刺身用の季節魚いろいろ、カウンターに、いいだこの煮つけ、かき、鳥のキモなどが盛りあげてあって、それを注文すればいいのだ。ほかになべものもあり、一日、三、四十種の品数をそろえているから、口のかなりうるさい人には、その選択が楽しみというもの。

さしみは二八〇円。つきだし五〇円、なべもの三〇〇円、酒は一級酒で一〇〇円。昼は毎日品ぶれがかかる刺身、天ぶらなどの一品と赤だし、つけものをつけた一三〇円の定食をやっている。たぶんどこにもないと主人が、実質をほこっているが、サラリーマンやBGでたいへんな混み方。表に行列して



「すいきょう」で懸命に飲んで食べても一人1000円でたっぷり。

\* 女ざかり

〈1〉

文・竹田洋太郎

# 木村君子さん

スペイン語に「ビローボ」という言葉がある。一口にいえば女性を賛美することだが、スペイン、中南米では独特の方法があつて「バラのように美しいあなたを生んだお母さんに神のお恵みがあるように」などと、テレもせずに女性に語りかけるのだ。もちろん通りすがりの女性にもこれをやるわけだが、日本人にはちょっとできな芸当である。

しかし私は一度、大っぴらに女性を賛美してみたいとかねがね思っていた。近ごろオール読物などの雑誌に「なんとかなにべえと七人の女」といったグラフの特集をやっているが、一流の文士でなければ登場させてもらえない。だが、たまたま「神戸っ子」が何かを書けといふので、この際日ごろの望みを果させてもらえると、女性賛美を綴ることにした。

とはいも、私のような好青年が、若い未婚の女性を賛美したりすると、結婚のための聞き合せなどで迷惑をかけるかもしれない。そこで私がひそかに好意をもつていて、思いのだけを活字にしても、ほほえみを持つて受け入れて下さるような女性に限ることにした。結果、やはり「女ざかり」の女性となつたのである。女ざかりとは何歳から何歳までか。そんなことはどうでもよろしい。登場される女性をご覧になればナルホドと合点されるにちがいない。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇

さて、第一回に登場願ったのは、木村君子さん。タコ焼きでは天下に有名な神戸「蛸の壺」の木村憲吾氏の奥さんである。結婚適齢期のお嬢さん、大学生でタコ焼き

の腕も学士なみになつた息子さん、それに高校生と三児の母だ。

しかし私がはじめ、現在の場所とちがつて国鉄元町駅を下つた旧蛸の壺へ出入りしたころは、高校生の坊やがまだ小学生にもなつていなかつた。いまブラジルで活躍している画家の若林和男君、そして悪友ナンバーワンの鶴居玲君などと、タコ焼きで一杯やろうと、いつのまにかミコシをすえたのがこの店だった。

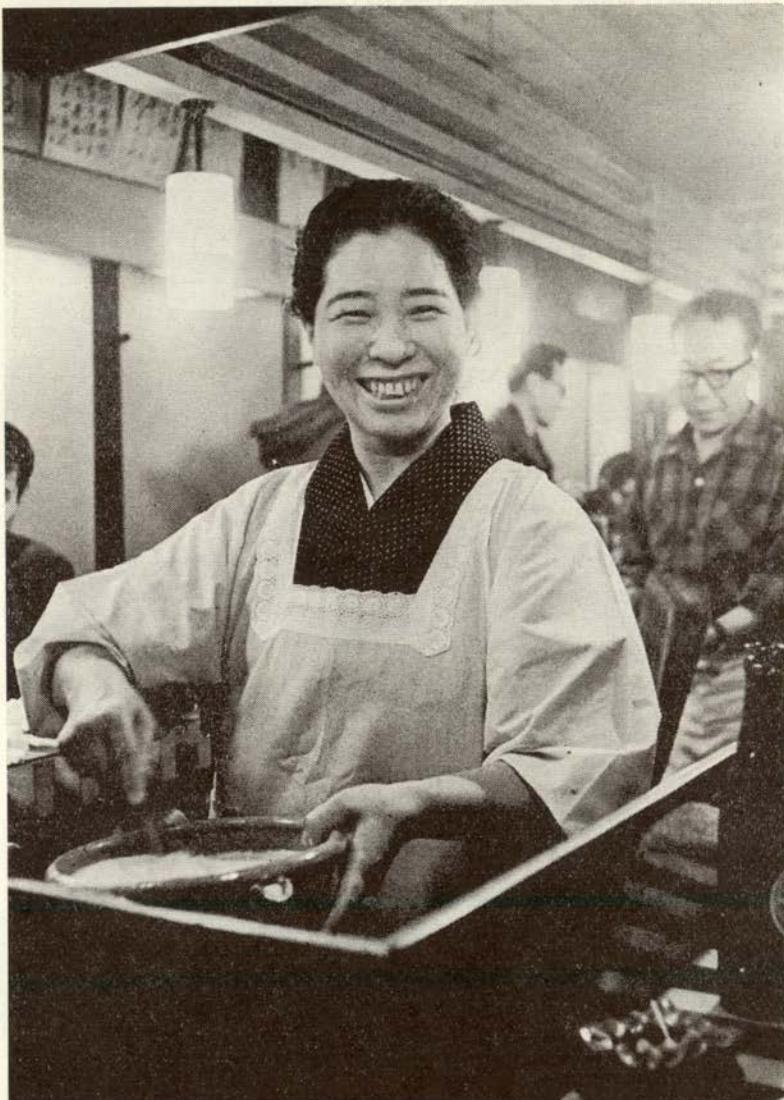
タコ焼きの焼ける香り、ギョウザの香り、そして熱爛の立杭焼の徳利のぬくみ。その中で芸術論（A）文学論（B）文化論（C）からYにいたるまで、議論をたたかわし、最後に「ああ、お金がほしいな」とつぶやき、寒風吹きすさぶ元町駅のプラットホームから帰つて、『青春後期』はこの蛸の壺にあつた。

そのころの奥さんはもちろん今より若かつたはずであるが、思い出そうとしても、そのイメージが浮んでこない。先日もここで酒を飲みながら考えたが、なぜだかわからない。強いて想像すると、こうである。われわれの同時代に属する君子さんは、北京で新婚生活を送り（そこで中国の家庭料理であるギョウザその他のウデを磨いたのだが）引揚げてきて生活と闘い、子供を育てねばならなかつた。つまり戦後のその時代の女性として「雄々しく」生きていたのである。

そして、いま、子供さんも成長し、店も発展し、その店の中心として存在するようになると、女性としての輝きが一段と増し、過去のイメージをも圧倒する美しさを備えたためではないか。

しかし、やはり君子さんの変わらないものがある。私たちに金がない時、議論の果てにケンカがおつ始まつたとき、困ったような表情をひたいに見せ、しかも目と口もとは相変わらずハーフ・スマイルといった顔で温かく私たちを見守つてくれた、あの姿である。

私個人についていえば、失恋した時のヤケ酒も、いまの女房と結婚する約束をした夜の祝い酒も、はじめての子供をはじめて神戸に抱いてきた夜の酒も、なにもかも知つていて、なにもいわないで温めてくれたのが君子さんだ。カトリックで告解を聞く神父さんのような役割りも果してくれた。

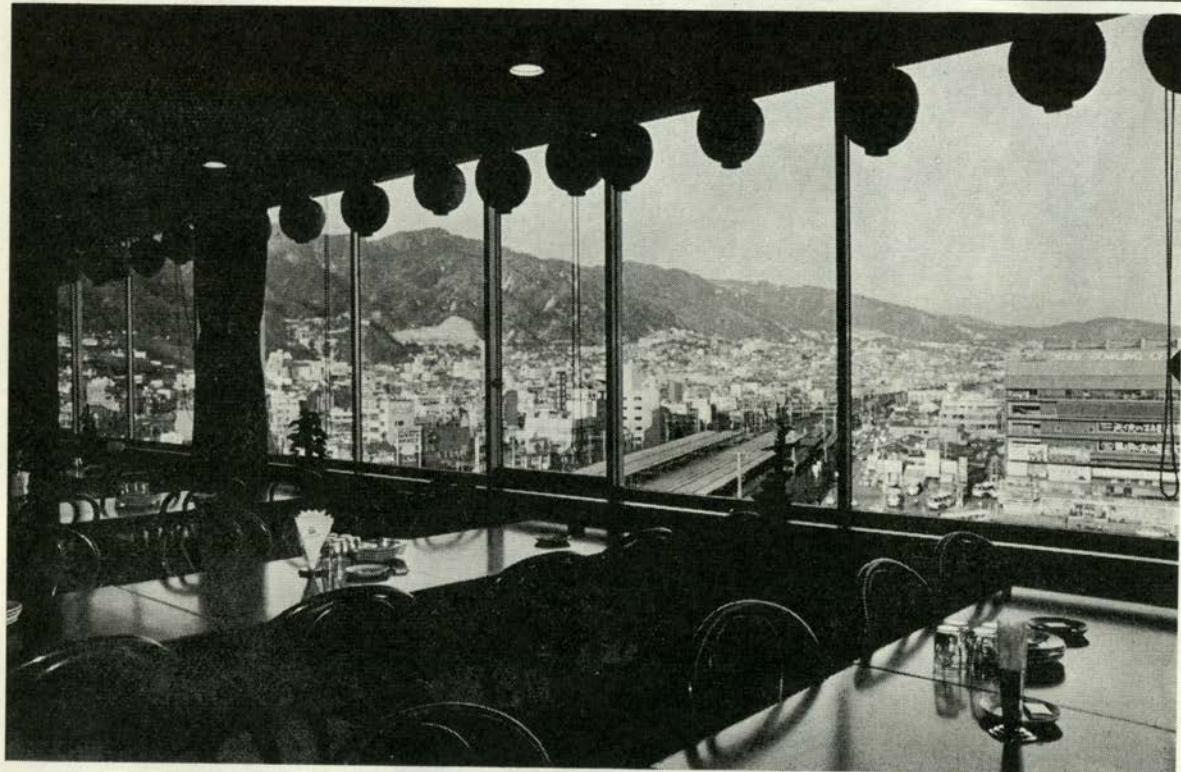


►たこつぼの店でたこ焼を焼くにこやかな木村君子さん

そしていま、いい趣味の和服をカッポウ着に包んで、そこからこぼれる女さかりの魅力を、静かに私たちに見せるともなく、見せぬともなく……。そして夫婦のイキの合った店の切りまわし（これはつけ加えないと、ご主人のウラミが恐い）をながめながら飲む酒はひとしおうまいのである。

女ざかり、といつても私の好みからいえば「かわいい」感じを持つ人でなければならない。よその奥さんに「かわいい感じ」なんていうと問題になりそうだが、君子さんを見る男性なら、私のこの気持はわかっていたけるだろう。ぜひこの店で奥さんに会つていただきたい。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ サントリー《純生》でスコール!! ☆ ☆ ☆ ☆ ☆



スカイサントリー・ヴァイキングコーナーから眺めた神戸の街

飲みほうだい（サントリー純生ビール）+食べほうだい！〈北欧風ヴァイキング料理〉1,200円〈飲食税120円別〉



なごやかな  
ムード  
すばらしい  
眺望！

ビヤレストラン

スカイサントリー

三宮交通センタービル9階 TEL 03-3705~6

こんにちはノブです

アナタノクラブ

アナタのいこいの場

〈ノブ\*クラブ〉



"MY PACE IN PLAIN WAY"

〈ノブ\*クラブ〉は、洋酒とお食事のクラブです

営業時間PM 5:00~AM 2:00

 *Nobu\*Club*

ノブ\*クラブ(三輪ノブ映)＝ノブ興業株式会社チェーン  
神戸市生田区北長狭通り1丁目41 生田新道

〈チェリービル3F〉 TEL <39> 2173

姉妹店 お茶漬の店"宮城"同様可愛がって下さいませ



OCB 加盟店

年中無休

坂上 太佳子

神戸市生田区中山手通1丁目110

PHONE <33> 5543・7831

# setsu

ご家庭の雰囲気で  
楽しめる  
あなたのスタンド



スタンド

# 勢津



生田東門筋  
ゼウス街  
TEL <39>0516



スタンド 和



生田区下山手通1丁目50  
(生田筋 新世紀東)  
TEL (33)6385・7425